

B 147 近世以降における農民服飾の研究 — 文献にかき衣生活(5) —
和譯女大文家政 鷹司綸子

目的 例年行つて来た、近世農民の「衣」の生活を同時代資料のかき資料として実態を明らかにする方法で、長崎・佐賀・福岡等の北九州地域のものを探求したもの。

方法 果都市町村史・古記録・藩法などを主な資料とし、分類・考察を行つた。

結果 古くからの大陸との門戸を含む当地域は、近世においても唯一の貿易港として、新文化の流入口であり諸商人の目指すところであつただけに、奢侈に務り極貧のものもそれなりに出費が増して一層困窮に向かうと云うのは、他藩以上に切実な問題であつたに違いない。徳のために一着さひしく差押之長品々も生活の盾にと教さねばならなかつたりする。又、博多・小倉・久留米等、名産品が出来るが、原料のわた等、勿論土地のものもあるが、しばしば替木綿にたよつた為、そうした品々を生活用に近江商人等他國の商人が売りに来る等、外からの刺激の受け方からいへば、たのが当地域の特色である。